

はばたけ! アルプスっ子

活動の様子を拝見して

岐阜大学教育学部教授 北 俊夫

松本工事事務所管内にある8つの小学校では、本年度、学校・学年が一丸となって、それぞれの地域の環境を生かした総合的な学習や社会科の学習を推し進めている。

各学校では教室内的学習にとどまらず、砂防堰堤や流路工などの施設、川の護岸工などを実地に学習する見学会や実験教室を実施している。そこでは、地元の砂防の専門家と言われている担当者がボランティアとしてかわり、砂防や施設の役割や機能について分かりやすく説明し助言している。見学会などには、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方々も参加している。地域ぐるみの学習が展開されていると言える。

子どもたちは、砂防などの事業が地域住民の生命と財産を守ることを使命に行われているだけでなく、自然の保全や景観にも十分に配慮していることも理解し

ている。またその道の専門家から話を聞くことによって、地域には「もう一人の先生」が存在していることに気づき、地域理解をさらに深めている。各学校の子どもたちは実地に観察することによって、日頃何げなく見たり接したりしていたものの意義や役割を改めて確認するとともに、自然の驚異にかかわってきた先人の業績に目を向け、自然災害の恐ろしさ、自然に対する畏敬の念をもつようになってきたものと思われる。

今後、こうした各学校の精力的な取り組みがどのように整理され、10月15日（火）の「小学生インタープリメント2002」においてどのように交流されるのか。また学習をとおして地域にどのようにかわろうとする子どもが育ってきているのか。各学校の取り組みの成果は、各方面から注目され期待されている。



珍しい形

川に巨大な流木止めがあった 珍しい形だけど、しっかり災害を防いでいる

奈川小学校見学会

野麦峠が近い奈川小学校は、村の中を流れる奈川に沿って整備が進められている床固め工の施設と、野麦峠スキー場に近い

渋川の砂防えん堤を見学しました。共に身近にある施設ですが、改めて見たり、説明を聞いて、その役割や機能のことがよく分かったようです。

奈川の赤田沢砂防えん堤は、スリットが入ったえん堤。えん堤に隙間が開いていて、普段はこの隙間から少量の土砂を下流に流すとともに、魚もさかのぼれるようになっています。またえん堤の表面には自然の石を貼り付けてあり、周辺の自然景観にも配慮していることを講師の先生から聞きました。

奈川沿いに下ってくると、途中工事の様子を見学できました。護岸工事や山腹工です。山腹工は、崩れた斜面をそれ以上崩れないようにする急な斜面での工事で、大変そうでしたが災害を防ぐための大切な仕事です。また、こうした斜面が

ら崩れた土砂が川に流れ込み、土石流になるので、そのためには崩れを防ぐ必要があります。

渋川のえん堤もスリットが入っています。階段のようにいくつものえん堤が並び、流れを弱めるとともに、土砂を食い止める役割も果たしています。ここではスキー場の人工雪製造用に、えん堤から水を取水しているそうです。

最後は栃洞沢という小さな沢にある床固め工と流木止めの見学。小さな沢ですが、災害のときはたくさんの土砂や流木が出たということです。ここにある流木止めは、モニュメントのように流れの中にニョキッと立っています。講師の方からこの流木止めもまわりの岩も人工的に作ったものだ聞いて驚きました。とてもコンクリートで作ったとは思えませんでした。面白い形ですが、大雨などのときはしっかりとここで流木などを止めて、災害を防ぐ役割をもっています。

